

◆生育状況について

生育は、昨年より10日程度早く推移している。果実肥大は、摘果の早晚や着果量により、バラツキが大きい。収穫始めのまとまった降雨による落果や、果実腐敗病、核割れ、核割れからの軟化が目立つ。

◆当面の重点作業について

1. 乾燥し過ぎる前に、収穫間際でも軽い散水を行う。収穫が遅い品種は、定期的なかん水により、健全な生育と、日焼け防止対策を実施する。また、降雨が多い場合は、排水対策を行う。
2. 枝倒れしないように支柱等を行う。
3. 各品種の適期収穫に努める。着色より熟度優先で収穫し、ロス果を減らす！
4. せん孔細菌病「夏型枝病斑」対策を徹底する。
5. 薬剤散布を適期に実施する。また、除袋後・収穫前防除と被害果除去により腐敗病・ミカンキイロアザミウマ防除対策を徹底する。
6. 腐敗病被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、まずは圃場内の伝染源の除去を目的に、被害果を土中へ埋めるか圃場外へ持ち出す。

【もも薬剤防除】

◆西王母・黄ららのきわみ等特別薬剤散布について

1. 散布時期：8月14日（金）～18日（火）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネクタリン 収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—		—
ダコニール1000	1,000倍	100ml	前日	前日	灰星病
㊟モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	25g	前日	3日	シンクイムシ類・ハマキムシ類

3. 散布上の留意事項
 - 1) ダコニール1000は、除袋直後に飛散すると薬害を発生する場合があるので、十分注意する。
 - 2) ダコニール1000に代えて、㊟カナメフロアブル4,000倍（水100ℓに25ml・収穫前日まで）を使用してもよい。
 - 3) せん孔細菌病の葉への感染が多い園は、スターナ水和剤1,000倍（水100ℓ当り100g・収穫7日前まで）を加用散布する。

◆極晩生種の管理について

基本管理や薬剤防除は、前回情報までの内容をご確認下さい。

1. 除袋時期の目安（あくまで目安です。）

品 種	時 期
白根白桃	8月中～中下旬
さくら白桃	8月中下～8月下旬

※目安の指標：着色が容易な品種ほど、除袋は遅め。困難な品種ほど早めとなる。

※生育がバラついている。また小玉傾向で地色の抜けが遅い。

※今後の気象条件・自園の状況・地色を確認しながら行う。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について **※必ず実施する。**

収穫前の重要な病害虫防除になるため、必ず実施する。特に降雨が多い場合は、影響が大きい。

＜除袋後・無袋着色始め防除＞

1. 散布時期：有袋除袋後又は、無袋着色始め（収穫7～10日前頃） 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネクタリン 収穫前	病害虫
アプローチBI	1,000倍	100ml	—		—
スクレアフロアブル	3,000倍	33ml	前日	前日	灰星病・ホモプシス腐敗病
Ⓜ イカズチWDG	1,500倍	66g	前日	前日	モモガリガ・ミカンキロアザミヤ・シジミシジミ・ハダニ

＜収穫開始2日前防除＞

1. 散布時期：収穫開2日前 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネクタリン 収穫前	病害虫
アプローチBI	1,000倍	100ml	—		—
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	前日	灰星病・ホモプシス腐敗病
エクシレルSE	5,000倍	20ml	前日	前日	モモガリガ・ミカンキロアザミヤ・シジミシジミ・ハダニ

＜共通留意事項＞

1. 除袋直後（ほとんど果面に日照を受けない状態）は、薬害（褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良）が出やすい。除袋後、少なくとも1～2日程度は空けて実施する。
2. 「収穫前日」の使用時期は、収穫する開始24時間前までに散布が終了している必要がある。
3. 果柄部へ薬剤が届くよう丁寧に散布する。
4. 腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
5. スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル4,000倍（水1000ℓ当り25ml・収穫前日）を使用してもよい。
6. イカズチWDGに代えて、アーデントフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50ml・収穫前日）又はⓂスカウトフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50ml・収穫前日）又はⓂテルスターフロアブル3,000倍（水1000ℓ当り33ml・収穫前日）を使用してもよい。